

## 自己評価・外部評価 評価表

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(1) 理念の明確化									
①	サービスの特徴を踏 まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者 等の在宅生活の継続」と「心身の機 能の維持回復」を実現するため、事 業所独自の理念を掲げている		○			実現の為の理念であることを理 解して行く事が大切である。理 念を掲げている事は知ってい ても、その意味を深く理解す るに至っていない。	心身機能の維持回復への理 念と理解は時間を掛けて継続 することが大切である
(2) 適正な人材の育成									
①	専門技術の向上のた めの取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの 特徴および事業所の理念につい て、その内容を十分に認識している		○			職員においては内容について の認識が十分でないと感じるこ とがある。	新規面談、初回訪問等で管理 職、看護師の他に介護職員も 同席させ職場研修となるように 推進する
		3	運営者は、専門技術(アセスメント、 随時対応時のオペレーターの判断 能力など)の向上のため、職員を育 成するための具体的な仕組みの構 築や、法人内外の研修を受ける機 会等を確保している		○			今年度は新型コロナの影響も あり、研修を適切に実施するこ とができなかった。ネット配信 サービスによる研修も導入して いるが、活用不十分である。	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(2) 適正な人材の育成									
①	専門技術の向上のための取り組み	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している		○			事前の月ごとの勤務表を基に配置を検討しているが、個人の能力が発揮されるように常に考えて作成している	新任者と長年勤務した職員との専門技術は大きく格差がある。個々の能力をよく知ることが大切である
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている		○			朝、夕方の各事業所間の申し送り時と、日々の動向の中で変化があった場合は速やかに情報を共有するように努めている	朝、夕の引き継ぎ、申し送り時は相互理解を深める重要な機会なので情報を共有するように務める事
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている		○			人員に不足が生じている状態であるが勤務開始時間を変更したり、利用者特性に応じたサービス提供ができるよう努力している	利用者の状況判断を速やかに判断し、直ぐに実施することにより時間のロスも無くなり人員不足も少し解消されることは無いだろうか
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている		○			今年度は、コロナ感染症の影響により、9月は開催に至らなかった。前年より年2回の開催となっている為、貴重なご意見を頂戴する機会であり、是非サービス提供に反映させていきたいと考えている	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備									
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			サ高住及び、有料老人ホームの生活相談員等の協力があり、関係者間の情報共有は非常に速やかに行われている	同業他者、外部機関からの情報を共有し常に交流を行う事
およ									
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)		○			年間二回の交通安全講習会を実施。災害時の対応、夜間想定避難訓練等を実施しているが、夜間帯に関しては不安を感じている職員もいる	交通事故防止は万全を期して欲しい。また町内会で実施する防災訓練には積極的に参加して欲しい
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている		○			研修等において個人情報の取り扱いについて学んでいるが実際の取り扱いには不十分さがあると感じている。具体的には鍵付の収納等が不足している	利用者個人情報は最重要である為取扱い、保護には全職員に徹底して欲しい

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>									
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている		○			個人により、ディサービス利用日、利用回数、利用時間、通院や外出予定があり、その予定に合わせた提案をしている	身体的な事ばかりでなく、行事への参加等で楽しく1日を過ごして欲しい
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている		○			利用開始時、その後は毎月、看護師によるアセスメントを頂き実際の訪問計画に反映させている。併設事業所が殆どであるが、共有とつき合わせは多少不足していると感じるが、日々の申し送り等でカバーしている状況である	
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている		○			医療機関からの退院後は、心身機能が回復する場合が多く、また介護度も軽くなる場合もある。関係機関と連携を図りながら計画に反映させている	心身機能の維持回復は利用者一人一人が違うので専門技術が必要である為頑張って欲しい

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>									
②	利用者等の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないよう、利用者等の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている		○			在宅への訪問では、1日の訪問回数も限られると思うが、併設事業所の特徴を生かし複数回の訪問によりリスク管理できている。他事業所との連携と機能訓練状況を把握し計画へ反映している	いつも利用者等の状況をメモし、連絡し合って機能訓練状況から次の訓練を考えて問題意識を高めて欲しい
<b>(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し</b>									
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている		○			体調変化や、急な通院、外出等でデイサービスが休みになった場合等は、その状況に合わせて柔軟にサービス提供できるように努めている	定期巡回の中で体調変化等々によりサービスの変更は柔軟に対応され利用者等にしている
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	○				毎月定期的に介護員によるモニタリングを実施し、状況の把握と変化に対する計画反映を実施している	出来ているとの自己評価の為に継続して欲しい

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>									
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている		○			連携型として、常に情報共有を図っている。医療的な部分の指導、処置等は看護職が担い、身体介護、生活援助に関して実際のサービス提供は介護員が担っている	介護職と看護書区の専門的な能力を共有し互いにより役割分担を担って利用者へサービス提供して欲しい
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている		○			特定行為等の研修、指導はもちろんの事、褥瘡の発生予防、状態の観察等予測されることへの助言、指導を受けている	
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている		○			管理者及び、計画作成責任者から契約締結時に、重要事項説明書等において、本人または御家族に対して説明している。出来るだけ理解しやすいように説明している	利用者や家族の考え、要望を含め計画を作成し意向の変化、計画の説明をわかりやすいように専門用語を使わずに行う事

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(4) 利用者等との情報及び意識の共有</b>									
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている		○			目標に関しては本人または御家族に説明を行っているが、日常的な共通認識となっていないことも有る	利用者、御家族の方へは初めよく説明し理解を得ているが、日数の経過により意識が薄れるので反復説明する事が必要である
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				今年度は面会制限期間があり状況報告は主に電話連絡となった。有料ホーム及びサ高住の相談員と連携している	新型コロナ感染拡大の関係で面会制限があり工夫して対応を行って欲しい
<b>2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント</b>									
<b>(1) 共同ケアマネジメントの実践</b>									
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている		○			同法人担当の居宅介護支援事業所へは毎日変化状況を報告し、また法人外のケアマネへも適宜電話連絡等を行い情報を共有しながらサービス提供日時を決めている	利用者の有する能力を活かし心身機能の維持回復を重視してサービス提供をして欲しい
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている		○			有料ホームや他の事業所との連携を図り地域内の情報を得ながら提案している	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント</b>									
<b>(1) 共同ケアマネジメントの実践</b>									
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	○				サービス担当者会議への出席によりサービス提供状況等を報告している	サービス担当者会議は大変良い事。家族からの要望をよく聞くことが大切
<b>(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献</b>									
①	利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)		○			利用者の在宅状況を把握し、各機関等へ相談をしながら多職種での検討を行っている。	最適なサービスを受けた入居者は大変感謝している。心を込めたサービス提供をして下さい
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)		○			入院、退院、他施設への入所等において関係機関との連絡をし、内容を検討しスムーズに移行できるように情報共有を行っている	病院、施設への入院、入所退院退所の際は利用者にとって大変不安を感じていると思われるので、切れ目のない対応が必要である



タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント</b>									
<b>(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献</b>									
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)					地域展開を考えていたところ感染症の影響でサービス提供を開始することができずにいた。次年度の状況を踏まえつつ在宅生活を継続させる為に何ができるのかを考えていきたい	新型コロナの関係でできなかった提供だが、多職種で役割分担で次の時期に何をやるかはっきり計画を立てておく事
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>									
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>									
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○				今年度は会議開催できずにいた。年度末の開催も出来ないようだが、地域の方々から意見を頂戴し議事録にまとめホームページ上で発信し、また有料老人ホーム入口に置き閲覧できるようにしている	地域に向けた情報発信も新型コロナの関係でできなかったと思われる。ネットによる情報発信も考えられる
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている		○			ホームページ等での周知活動も行っているがまだまだ不足している。今年度は地域活動が中止になる場合も多く発信の場面や周知活動も少なかった	サービス概要、内容等のチラシを町内会の回覧を利用してはどうか

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>									
<b>(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>									
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している			○		理解できていない事が多いと答えた職員が多かった。常に自分達がどの環境の中で仕事をしているのか、一時的な研修では理解できない場合はしっかりと身に付く学習が必要である	定期的な内部研修を行っているが、地域包括システムについては内部で研修や話し合いがもたれているのかと疑問に思った
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている			○		常に地域へ展開していく事を考えているが、実績は少なく、昨年度より少しづつ具体策を考えていたが今年はコロナの影響で実績を残すことができなかった	この件も町内会の回覧システムを利用して地域の方へ情報を発信してはどうだろうか
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている <u>(※任意評価項目)</u>						

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>Ⅲ 結果評価(Outcome)</b>									
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている		○			現在の状態をいかに維持することができるかを目標としている利用者も多い。病院を退院してすぐにサービス提供を開始し、その後更新時の介護度が軽減していることも有り、目標達成出来るように努力している	
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている		○			今年度はコロナ感染症の影響で、御家族との面会も出来ずにいたが、特に遠方にいる御家族からは集合住宅で生活していることで安心感があったと話を頂いた。次年度は外への展開が実施できる事を願いつつ努力していきたい	利用者とその家族の方に「在宅生活」「集合住宅での生活」を継続させていくための介護サービスで安心感を与えて下さい